

2016年6月20日

横浜美術館コレクション展 2016年度第1期

## しなやかさとたくましさ—横浜美術館コレクションに見る女性の眼差し アメリカ写真の展開:1860年代—1940年代

The Exhibition of the Yokohama Museum of Art: Collection 2016 Part1

Graceful and Tough:

The Feminine Gaze – Works from the Yokohama Museum of Art Collection

The Evolution of American Photography, 1860s-1940s

2016年4月23日(土)~9月11日(日)

横浜美術館

横浜美術館コレクション展 2016年度第1期では、この夏開催される企画展「メアリー・カサット展」(会期:6月25日~9月11日)に連動して、女性アーティストの活躍に焦点をあてます。

今、もし画家になろうとしたら、美術を教える学校への進学を思いつくかもしれません。しかし、明治22年開校の官立の東京美術学校(現・東京藝術大学美術学部の前身)には、開設当初、女性の入学者はいませんでした。女性というだけで画家を志すことが困難な時代もありました。

日本における女性洋画家の草分け的存在、<sup>わたなべゆうこう</sup>渡辺幽香は、<sup>ごせだほうりゅう</sup>五姓田芳柳(初代)の娘で、<sup>ごせだよしまつ</sup>草創期の洋画家、五姓田義松の妹です。恵まれた環境も手伝って、絵画制作への強い意欲で画家となった幽香は、メアリー・カサットが、世界コロンブス博覧会(1893年、シカゴ)で壁画を描いた婦人館に、日本を代表する女性画家の一人として《幼児図》を出品しました。五姓田派などの画家たちの作品と併せて、幽香の生きた時代の作品をご紹介します。

また、コレクションにおける海外女性作家の作品から、カサットの母子像の意味をあらためて考える作品も展示しています。

戦後日本においては、美術界に羽ばたく女性たちが数多く登場します。多くの女性作家たちは、人としてたくましく生き抜く力強さとしなやかさを、作品に託していると言えるでしょう。特有の美意識で自らの表現を追究する女性作家たちの多彩な表現を、コレクションの中からご覧いただきます。

写真展示室では、アメリカ出身のメアリー・カサットに因み、1860年代から1940年代までのアメリカ写真の展開を特集します。

### 展示構成

#### 1. しなやかさとたくましさ—横浜美術館コレクションに見る女性の眼差し

近代日本洋画黎明期に生きる: 渡辺幽香とその周辺

コレクションに見る海外の女性作家たち

しなやかさとたくましさ—戦後を歩んだ女性作家たち

流派を超えて—現代の表現から

日本画に見るそれぞれの眼差し

●出品作家-----

渡辺幽香、ガブリエーレ・ムンター、ヘレン・ハイド、バーサ・ラム、遠藤彰子、福田美蘭、江見絹子、田中敦子、桂ゆき、篠田桃紅、吉田千鶴子、川崎麻児、常盤とよ子、辰野登恵子、内田あぐり、松井冬子、小西真奈、熊井恭子、石内都、上村松園、荘司福、片岡球子、小倉遊亀、水谷愛子、など

#### 2. アメリカ写真の展開:1860年代-1940年代

●出品作家-----

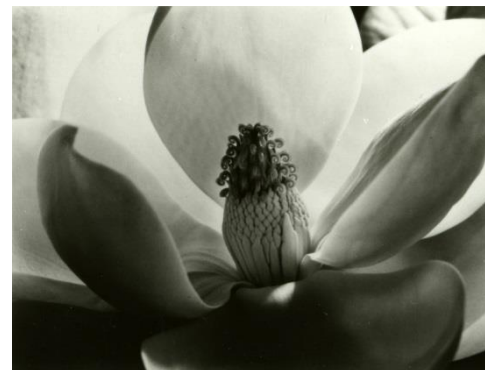
ティモシー・オサリヴァン、アルフレッド・スティーグリッツ、エドワード・スタイケン、ポール・ストランド、イモーゼン・カニンガム、エドワード・ウェストン、アンセル・アダマス、ベレニス・アボット、マヤ・デレン、など



渡辺幽香《幼児図》1893年(明治26)  
油彩、カンヴァス、57.8×84.0cm



松井冬子《世界中の子と友達になれる》2002年(平成14)  
絹本着色、裏箔、紙、181.8×227.8cm、寄託



イモーゼン・カニンガム《マグノリアの花》1925年(後年のプリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント、25.2×32.6cm

## ----- 展覧会の見どころ

○「女性作家」のしなやかさと、たくましさに注目

横浜美術館では、渡辺幽香、上村松園をはじめとする明治の画家から、片岡球子、桂ゆき、田中敦子、さらに、<sup>ふくだみらん</sup>福田美蘭、石内都、内田あぐり、遠藤彰子、<sup>たつのとえこ</sup>辰野登恵子、松井冬子といった現代日本を代表する作家まで、さまざまな分野の女性作家の作品を収集してきました。また、企画展でも片岡球子や松井冬子を個展で紹介するなど、女性作家たちによる、たくましくもしなやかな表現に注目してまいりました。コレクションを「女性作家」というテーマで展示するのは、初めての試みです。

## ----- 関連イベント

○アーティスト・トーク

①遠藤彰子(洋画家、武蔵野美術大学教授) :2016年6月5日(日)[終了]

②内田あぐり(画家、武蔵野美術大学教授) :2016年7月16日(土)

時間 :①14:30~15:30 ②14:00~15:00

会場 :コレクション展展示室、ホワイエ

申込み :不要

料金 :無料(当日有効の観覧券が必要です)

座席数 :40席



荘司福《春律》1986年(昭和61)、紙本着色、170.0×345.0cm、荘司福氏寄贈  
(コレクション・フレンズ 2016年度テーマ作品より)

○ギャラリートーク

さまざまな切口で学芸員やエデュケーター(教育担当)などが作品の見どころや楽しみ方を紹介します。

日程 :2016年5月13日、5月27日、7月8日、  
7月22日、8月12日、8月26日 いずれも金曜日

時間 :いずれも14:00~14:30

会場 :コレクション展展示室

申込み :不要

料金 :無料(当日有効の観覧券が必要です)

○美術をたのしむ! こども探検隊

中高生がナビゲートする小学生(4~6年生)のための  
展覧会ツアーとワークショップ。

日程 :2016年8月21日(日)

時間 :10:30~14:00 ※ランチ交流を含む

会場 :コレクション展展示室、8階スクールスペース

対象・定員:小学4~6年生・30名

(事前申込、先着順)

参加費 :無料 ※ランチはご持参ください

申込み :ウェブサイト専用申込フォームにてお申込み

## ----- 基本情報

横浜美術館コレクション展 2016年度第1期

2016年4月23日(土)~9月11日(日) \*展示室休室:2016年6月6日(月)~6月24日(金)

会場 横浜美術館 (〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい3-4-1)

TEL:045-221-0300 FAX:045-221-0317 <http://yokohama.art.museum>

開館時間 10:00~18:00 ※5月27日(金)、9月2日(金)は10:00~20:30 (入館は閉館の30分前まで)

休館日 木曜日(5月5日、8月11日を除く)、5月6日(金)

観覧料 一般500(400)円 大・高校生300(240)円 中学生100(80)円 ※小学生以下無料

※( )内は有料20名以上の団体料金(要事前予約)

※2016年5月5日(木・祝)は無料

※毎週土曜日は、高校生以下無料(生徒手帳、学生証をご提示ください)

※障がい者手帳をお持ちの方と介護の方(1名)は無料

※毎月第3月曜日は横浜市在住の65歳以上の方無料(「濱ともカード」をご提示ください)

※企画展ご観覧当日に限り、企画展の観覧券でコレクション展もご覧いただけます。

プレスリリースお問合せ

横浜美術館 広報担当(宮野、藤井、長濱)

Tel. 045-221-0319 Fax. 045-221-0317 Email: [pr-yoma@yaf.or.jp](mailto:pr-yoma@yaf.or.jp)